

独立行政法人 国立病院機構 岩国医療センター 内視鏡室

安全で高度な医療サービスの提供が 地域基幹病院としての使命

国立病院機構岩国医療センターは、山口県東部で唯一の3次救急施設であり、地域に救急医療と高度先端医療を提供する基幹病院として発展してきました。平成16年の独立行政法人への移行に伴い地域医療連携室を立ち上げ、患者様やご家族の医療相談や周辺施設との情報交換等を積極的に行い、地域医療の推進に力を入れています。

同院では救命救急センターを併設しているため、内視鏡室では年間約200例にも上る緊急内視鏡を施行しています。医師4名で構成されたチームが当番制で365日24時間対応し、あらゆる事態を想定したチーム医療を徹底しています。また、ESDや胆管結石治療、ステント留置術などの治療内視鏡を積極的に行っており、特に治療目的としたERCPの施行件数は近隣施設からの紹介もあり年々増加しています。消化器科医長の田中彰一先生は、「患者様は当院で治療ができないと、より遠方の他施設まで通院しなくてはならず、患者様ご自身やご家族にとって大きな負担となります。そのためにも、新しい治療法や技術を習得し、オールラウンドの内視鏡治療を患者様に提供することは基幹病院としての使命だと考えます。内視鏡室では救急対応で培ってきたチームワークが効果的に機能しているので、現在最も力を入れているESDに関してもスムーズに導入でき、症例数も増加しています」とお話をされました。

内視鏡室では全国的にも早い時期に感染対策に取り組んでおり、医師・スタッフともに安全管理に対する意識は高いレベルにあります。限られたスタッフ数、スコープ本数、洗浄器台数でもより安全な内視鏡検査を行えるよう、患者間のスコープ洗浄・



山口県岩国市黒磯町2丁目5-1

院長：斉藤大治

病床数：580床(うち精神30床)

年間内視鏡検査数(平成17年)：4231例

うち、上部消化管2,865例、下部消化管1,230例、ERCP136例、

EUS50例(上部・下部消化管の検査数に含む)

スコープ本数：16本

うち上部消化管用11本(細径、側視鏡、十二指腸用、2チャンネルス

コープ 各1本を含む)、下部消化管用5本(小児用硬度可変式、2チャン

ネルスコープ 各1本を含む)

自動洗浄器設置台数 4台、超音波洗浄器2台、オートクレープ1台

スタッフ：医師5名、レジデント2名、看護師3名

消毒には強酸性水を用い、処置具は積極的にディスポーザブル処置具を導入され、現在ではほとんどの処置具がディスポーザブル化されています。強酸性水はメンテナンスをきちんと行わないと消毒効果が保てないため、導入時にはPH値を細かくチェックし、その結果消毒が有効なスコープ本数を5本と限定し、管理体制を確立して確実な消毒を実施しています。田中先生は、「内視鏡医にとっては、内視鏡介在感染は非常に重要な問題です。患者さんが安心して検査や治療を受けられる環境を整えるためにも、可能な限りの手段を講じて感染のリスクを排除することが、我々の使命であると考えます」と、感染対策への熱意を語っていただきました。



内視鏡室のみなさん(前列右から2番目が田中彰一先生)